



非鉄金属市況と需給動向

2023年8月（銅、亜鉛、ニッケル、金・白金族）

独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構

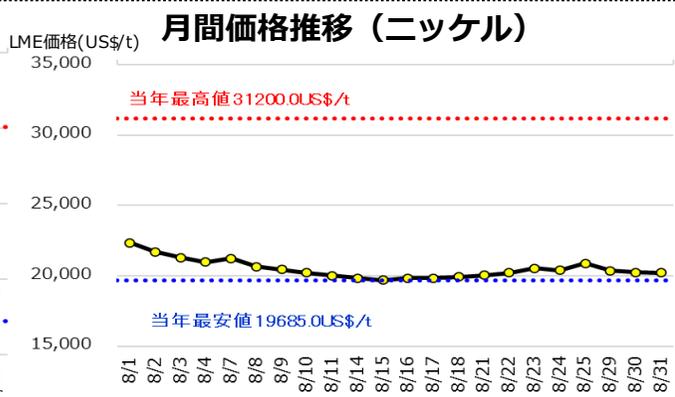
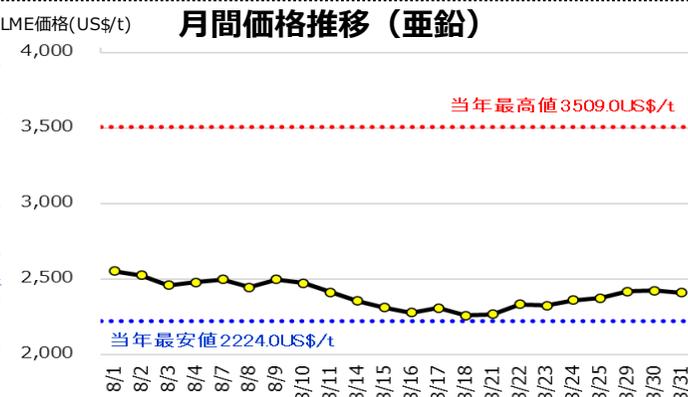
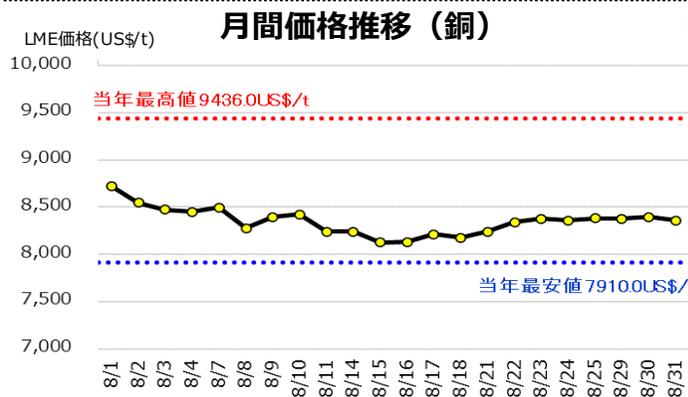
おことわり: 本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行っておりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

ベースメタル市況動向

銅・亜鉛・ニッケル、米ドル高や中国経済低迷で下落、下旬はやや持ち直すも上値は重い展開が続く

■8月市況動向

- 銅・亜鉛・ニッケル、上旬は世界経済の不透明感を受けて下落傾向、下旬は持ち直すも需要減退への警戒感は継続か**：前月に引き続き上昇が抑制される中、当月の銅は8,720.5US\$/t、亜鉛は2,554.0US\$/t、ニッケルは22,355.0US\$/tといずれも当月最高値でスタートした。7月31日に発表された中国国家統計局の製造業購買担当者景気指数（PMI）は49.3と4か月連続で50を割り込んだ。また当局が発表する景気刺激策は金利引き下げなどの小規模なものに留まっており、中国需要の減退見込みに圧迫され、15日に銅が8,126.5US\$/t、ニッケルが19,685.0US\$/t、18日に亜鉛が2,261.0US\$/tとそれぞれ当月最安値をつけた。20日、中国当局が中小企業や製造業を支援する具体的な景気刺激策を実施すると表明し、工業需要増加期待により3鉱種とも上昇に転じた。一方20～24日、ICSG、ILZSG、INSGは2023年上半年の需給バランスをそれぞれ210千t、370千t、105千tの供給過剰と発表した。中国のゼロコロナ政策や欧米各国中銀の金融引き締めによる需要減が需給の緩和をもたらしており、3鉱種とも市場の余剰感が増していることが上昇を抑制した。さらに24～26日に開催されたJackson Hole会議において、米連邦準備制度理事会（FRB）のPowell議長が金融引き締めを継続する意向を示したことも重しとなった。下旬は横ばいに推移し、銅は8,359.5US\$/t、亜鉛は2,412.5US\$/t、ニッケルは20,225.0US\$/tで越月した。
- 亜鉛、生産者の収益悪化による減産懸念の影響は限定的か**：建設業界をはじめとする需要低迷によって下落が続く亜鉛価格は、鉱石生産者の収益を悪化させている。3日、豪Aeris Resources社が、財政悪化により豪Jaguar亜鉛・銅鉱山をケア&メンテナンスに移行した。直近でケア&メンテナンスに移行した鉱山は、豪Aurora Metals社のKing Vol鉱山およびMungana鉱山、スウェーデンBoliden社のTara鉱山に続き4件目となる。コスト面から2,500.0US\$/tを下回ると中小規模鉱山の操業が難しいと見込まれる中さらなる減産懸念は高まっているものの、現在は需要減退により市場は余剰気味となっている。鉱山の操業停止が需給バランスのタイト化にすぐにはつながらないと見込まれており、足元の上昇に対する影響は限定的である。
- ニッケル、尼政府の汚職問題により鉱石供給懸念が引き起こされ反発も、影響は短期的に**：ニッケルはインドネシアや中国における増産が重しとなって下落傾向にある。需要増加の手がかりにも欠ける中、年初からは30%以上下落しており、15日に20,000.0US\$/tを割り込む当年最安値をつけた。18日、尼政府内における汚職問題に伴って企業への採掘量の割り当て手続きなどが遅延し、PT Antam社でもいくつかの製錬所が操業停止となるなど影響が及んだ。長期供給に対する懸念が引き起こされたことで買いが入り反発したが、フィリピンからの鉱石輸入による代替などで短期的な上昇に終わった。



需給動向 - 銅 -

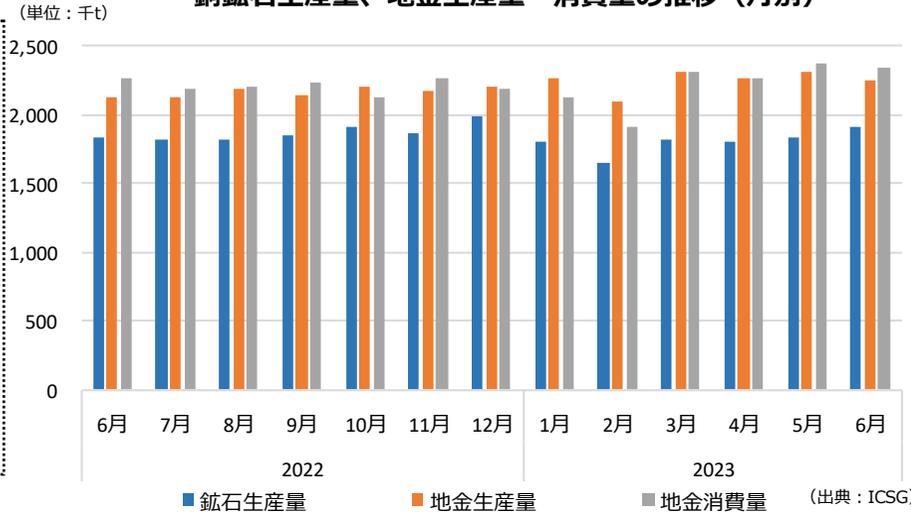
2023年6月の世界鉱石生産量はペルーが貢献し増加、地金需給バランスは2か月連続で供給不足に ■ 需給動向（8月発表分）

- ① **2023年6月世界鉱石生産量は前年同月比で増加**：国際銅研究会（ICSG）によると、2023年6月の世界鉱石生産量は1,908.8千tで、前年同月比4.5%増となった。王ばつや鉱石品位低下が続くチリでは、Escondida鉱山の生産量は同比8.7%増となったもののCollahuasi鉱山などの減産に相殺され横ばいだった。ペルーでは、Quellaveco鉱山の立ち上がりやLas Bambas鉱山の操業再開により20%以上増産し、世界生産量の増加を押し上げた。
- ② **2023年6月需給バランスは90千tの供給不足に**：ICSGによると、2023年6月の世界地金生産量は2,245千tで前年同月比5.4%増、世界地金消費量は2,335千tで同比3.3%増となり、需給バランスは**90千tの供給不足**となった。インド・インドネシアなどで減産したことにより供給不足とはなっているものの、世界経済減速による需要の冷え込みにより不足幅は前年同月と比較して縮小している。

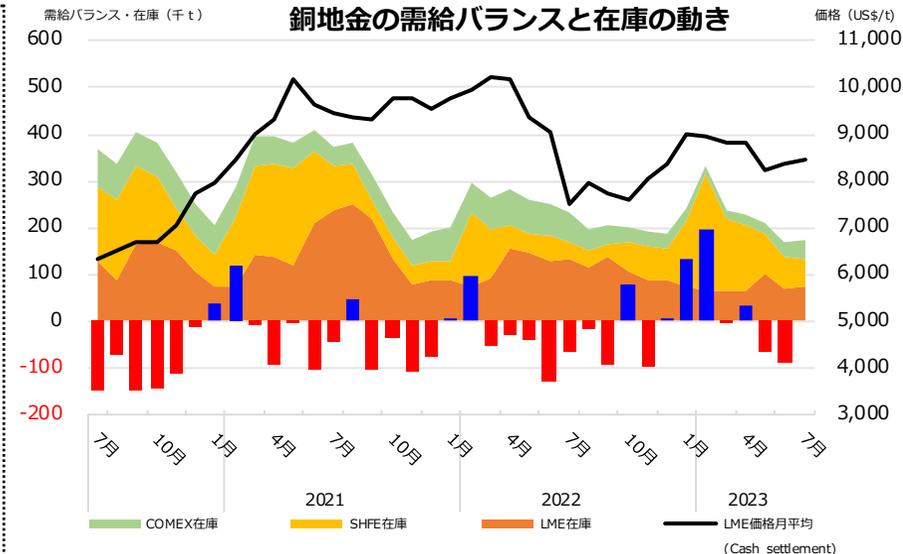
■ 企業動向

- ① **米エネルギー省（DOE）**：米国政府機関の公式として初めて、重要物資リストに銅を追加（3日）。
- ② **南方有色集団（中）**：中国南部広西チワン族自治区において新規銅製錬所の操業開始時期を、当初予想より早い2023年10月に予定と発表。生産能力を2倍以上となる700千t/年に拡大する方針（10日）。
- ③ **SA州政府（豪）**：銅をクリティカルミネラルに位置付ける（17日）。
- ④ **Stavely Minerals社（豪）**：豪Chalice Mining社から、WA州Hawstoneニッケル・銅・コバルトプロジェクトの買収を完了（21日）。
- ⑤ **First Quantum社（加）**：Rio Tintoへ105mUS\$を支払ってペルーLa Granjaプロジェクトの権益55%の取得を完了、プロジェクトオペレーターに（23日）。
- ⑥ **Zijin Mining社（中）**：チベットZhunuo鉱山を買収（23日）。
- ⑦ **Aurubis社（独）**：銅を含む金属スクラップの輸送中に窃盗など大規模詐欺被害に会い数億€の損失を被る。材料不足により、今年の利益予想を達成できないと発表（31日）。

銅鉱石生産量、地金生産量・消費量の推移（月別）



銅地金の需給バランスと在庫の動き



需給動向 - 亜鉛 -

ILZSG発表の6月鉛石生産量はTara鉛山操業停止も世界全体では増、需給バランスは供給過剰が継続

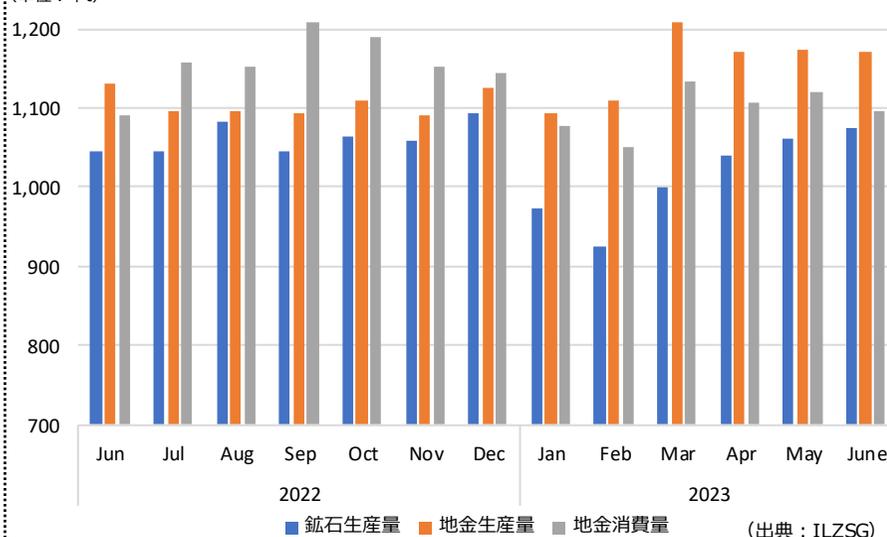
■ 需給動向（8月発表分）

- 2023年6月鉛石生産量は増加**：国際鉛亜鉛研究会（ILZSG）2023年8月発表によると、2023年6月の鉛石生産量は1,075.3千t（対前月比1.7%増、18.1千t増）となった。欧州では、スウェーデンBoliden社がアイルランドTara鉛山を操業停止するなどやや減産したほか、メキシコではPenasquito鉛山においてストライキにより出荷に対する不可抗力が宣言された。一方、中国やペルーでは5%以上増産するなど生産は安定しており、世界全体の生産量は小幅ながら増加した。
- 2023年6月の需給バランスは3か月連続で供給過剰**：ILZSGによると、2023年6月の地金生産量は1,171.7千t（対前月比0.1%減、1.6千t減）、地金消費量は1,095.8千t（対前月比0.9%減、9.8千t減）で**76千tの供給過剰**となった。地金生産量は、中国において、湖南省、河南省などで定期的なメンテナンスサイクルに入ったことで減産した。一方、一部の製錬所において夏季の停電や電力価格高騰を考慮して事前に増産が行われたことで減少幅は微小に留まったほか、世界全体でも堅調に推移した。地金消費量は、フランス・ドイツ・イタリア・ポーランドなど欧州で増加したが、米国・中国・日本・インド・台湾・トルコなどアジアを中心に需要が冷え込んだことで相殺された。地金生産量・消費量ともにほぼ横ばいとなり、需給バランスは6か月連続の供給過剰となった。
- 2023年1～6月需給バランスは370千tの供給過剰**：ILZSGによると、2023年1～6月需給バランスは、**370千tの供給過剰**となった。供給面では、電力価格高騰などにより減産していた欧州や中国が回復した。一方需要面では、ゼロコロナ政策からの回復が鈍い中国が低迷した。

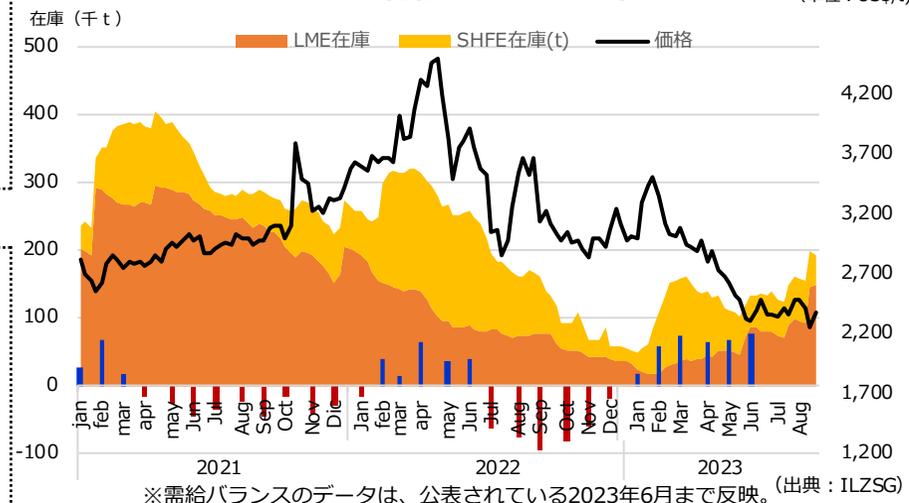
■ 企業動向

- Aeris Resources社（豪）**：亜鉛価格の低迷による財政悪化を背景に、WA州Jaguar亜鉛・銅鉛山を2023年9月からケア&メンテナンスに移行すると発表（2日）。
- Volcan社（ペルー）**：財政悪化を背景に、7月中旬からIslay亜鉛・鉛鉛山の操業を停止（17日）。
- Buenaventura社（ペルー）**：ペルーUchucchacua銀・亜鉛・鉛鉛山を約2年ぶりに操業再開予定と発表、9月1日に試験操業開始、9月下旬より正式生産開始見込み（28日）。

（単位：千t） 亜鉛鉛石生産量、地金生産量・消費量の推移（月別）



需給バランス・在庫（千t） 亜鉛地金の需給バランスと在庫の動き（単位：US\$/t）



需給動向 - ニッケル -

尼、採掘枠の不正問題により採掘量の割当が遅延、国内の鉱石供給に懸念が発生し比産鉱石の輸入も

■ 需給動向（8月発表分）

- ① **2023年6月プライマリーニッケル需給バランス**：国際ニッケル研究会（INSG）2023年8月発表によると、2023年6月の世界ニッケル需給バランスは**27.4千tの供給過剰**となった。
- ② **2023年6月の尼ニッケル生産・輸出状況**：INSGの国別データによると、インドネシアのプライマリーニッケル生産量が122.2千t（前月110.7千t）となった。また、同国からのニッケルマットの輸出は、中国向けが15.1千t、日本向けに6.3千tの合計21.4千tとなった。
- ③ **尼、フィリピンから鉱石輸入**：インドネシアの国内製錬所は、国内の鉱石供給が不足しているため、フィリピンからの鉱石輸入を開始。鉱物生産量の割り当て作業が遅延していることが、PT Antamの主要鉱山の操業に影響を及ぼしている。

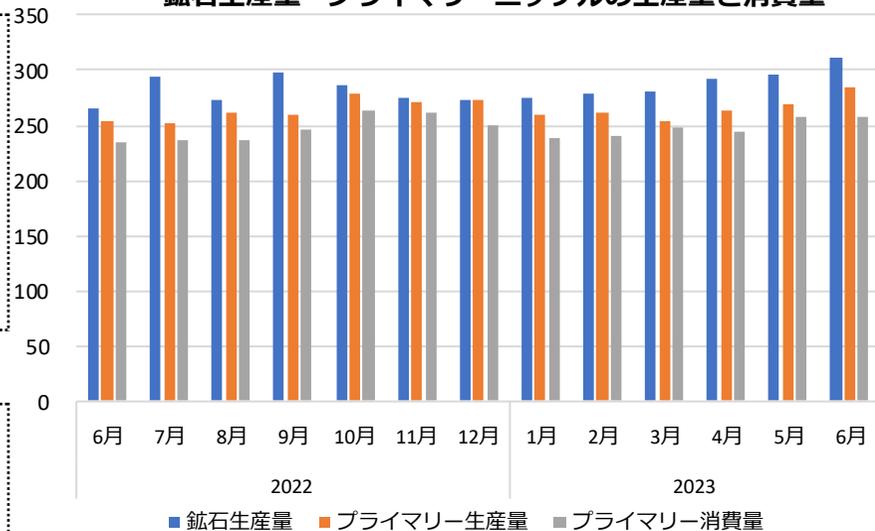
■ 関連動向

尼・前エネ省総局長逮捕により、採掘量割り当て手続き遅延：インドネシア最高検察庁は、ニッケルの採掘枠を地元企業に不正に与えた疑いで、エネルギー・鉱物資源省のRidwan前鉱物石炭総局長を逮捕。本件は、Sulawesi島のPT Antamの鉱区を含んでおり、同社の職員を含めた10名が容疑者とされている。これにより、**尼エネルギー・鉱物資源省は、ニッケル採掘量の企業への割り当て手続きが遅延していることを明らかにした**。今回の不正発覚で緩和していた手続きを旧来式に戻したことがある模様。尼国内の鉱石価格は数週間です約10%上昇している（9日、30日）。

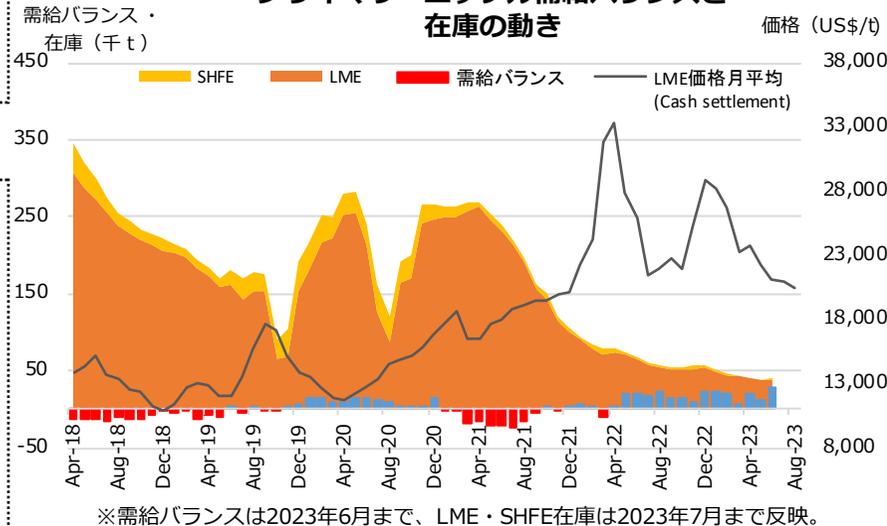
■ 企業動向

- ① **PTVI（尼）**：外国株主が保有する株式14%を尼国営企業に売却予定（5日）。
- ② **Nickel Industries社（豪）**：尼Excelsior Nickel Cobaltプロジェクトの拡張のため、943m\$株式割当増資の株主承認を求めると発表（7日）。
- ③ **中偉新材料股份有限公司（CNGR）（中）**：2022年11月にPT Antamと枠組み協定を締結したバッテリー原料向けプロジェクトを中止と発表（23日）。
- ④ **IBC（Indonesia Battery Corporation）（尼）**：中CBL社とのHPALプロジェクトのEPC（設計・調達・建設）を2023年末までに開始（29日）。
- ⑤ **Korea Zinc社・現代自動車（韓）**：EV用ニッケルサプライチェーンのパートナーシップ締結（30日）。

（単位：千t） 鉱石生産量・プライマリーニッケルの生産量と消費量



プライマリーニッケル需給バランスと在庫の動き



※需給バランスは2023年6月まで、LME・SHFE在庫は2023年7月まで反映。

需給動向 -金・白金族-

金は米経済が堅調で前半下落、下旬若干不振で上昇しV字の展開、白金族は需要減退懸念で低迷継続

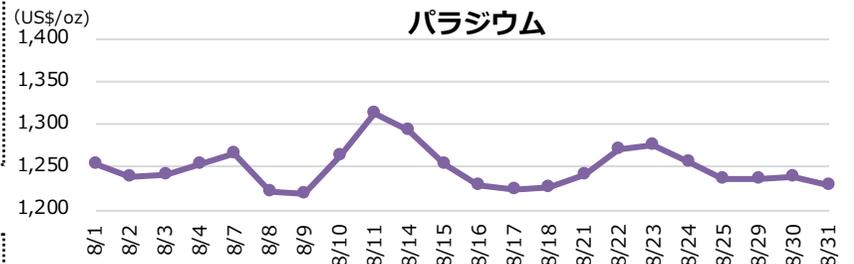
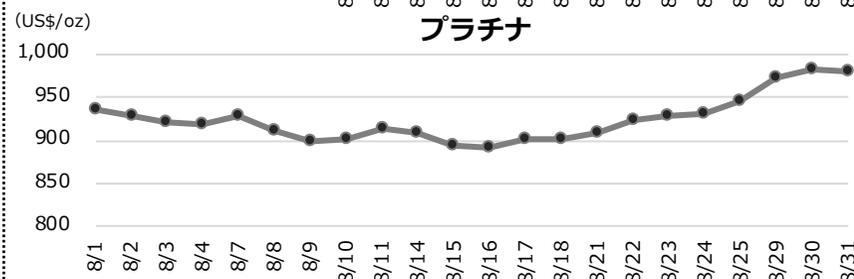
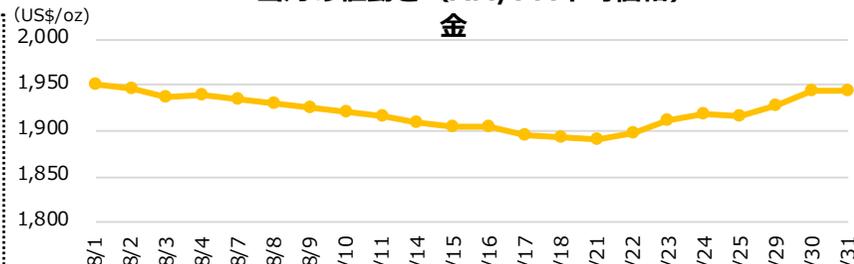
■金市況動向

- ① **堅調な米経済・インフレ継続低調な中国経済で下落基調に**：当月最高値の1,952.0US\$/ozでスタート、上旬～中旬に下落基調が継続した。4日発表の米失業率が3.5%と予想・前回(3.6%)をやや下回る等、労働市場の過熱感が少々薄れたことで米連邦準備制度理事会(FRB)の追加利上げ観測が後退したためわずかに上昇した。しかし週明け7日、FRBのBowman理事は、物価安定の完全回復に向け更に一段の利上げが必要と発言、再び下落基調となった。8日発表の中国貿易統計(輸出・輸入共に前年割れ)、9日発表の中国消費者物価指数(0.3%減)、生産者物価指数(4.4%減)等により中国景気の低調ぶりが意識され、8日はドル高も進行、下落に繋がった。11日発表の米生産者物価指数(PPI)が前月比0.3%増、前年比0.8%増と依然インフレが高水準であることが示唆され、米長期金利が上昇、ドル高も相まって更に下落した。15日発表の米小売売上高が0.7%増と予想(0.4%)を上回り、米金利の高止まりが継続するとの観測、17日発表の米新規失業保険申請件数が239千件と前月(248千件)より減少したことも米経済の堅調ぶりが示唆され長期金利とドル上昇で一層下落、1,900US\$/ozを下回り、週明け21日、当月最安値の1,890.0US\$/ozをつけた。
- ② **米経済指標が振るわず利上げ観測後退、上昇**：22日、米長期金利の一時低下を受け上昇に転じ、23日発表の米製造業PMIが47.0と振るわなかったことから更に上昇、1,900US\$/oz台に値を戻した。25日、米年次経済シンポジウム(Jackson Hole会議)でFRBのPowell議長が、適切であればさらに金利を引き上げる用意があると発言、一時的に下落したが、予想範囲内の発言だったため小幅な下落に留まった。28日の英Bank Holidayを挟み、週明け29日、米Conference Board発表の消費者信頼感指数が106.1と予想(116.0)や前回(114.0)を下回り、FRBの利上げ局面が後退し上昇、1,943.3US\$/ozで越月した。

■白金族 (PGM) 動向

- ① **プラチナ市況**：新規用途である新工ネ車への需要増期待やガソリン車触媒のパラジウムからの代替需要があるものの、影響は限定的で1,000US\$/ozを下回る安値が継続している。936.5US\$/ozでスタート。16日、当月最安値の891.0US\$/oz。30日、当月最高値の983.5US\$/ozをつけ、翌日979.0US\$/ozで越月した。
- ② **パラジウム市況**：EV普及やプラチナへの代替に伴うガソリン車用排ガス触媒の需要減退が意識され、1,200US\$/oz台の安値が続いている。1,253.5US\$/ozでスタート。9日当月最安値の1,218.0US\$/oz、11日に当月最高値の1,314.0US\$/oz、1,230.0US\$/ozで越月した。
- ③ **Northam Platinum社 (南ア)**：2023年上半期生産量(4E)が電力公社Eskom社との電力供給交渉が奏功し対前年同期比13%増の810千ozも、年売上高は減少の見通し(14日)。

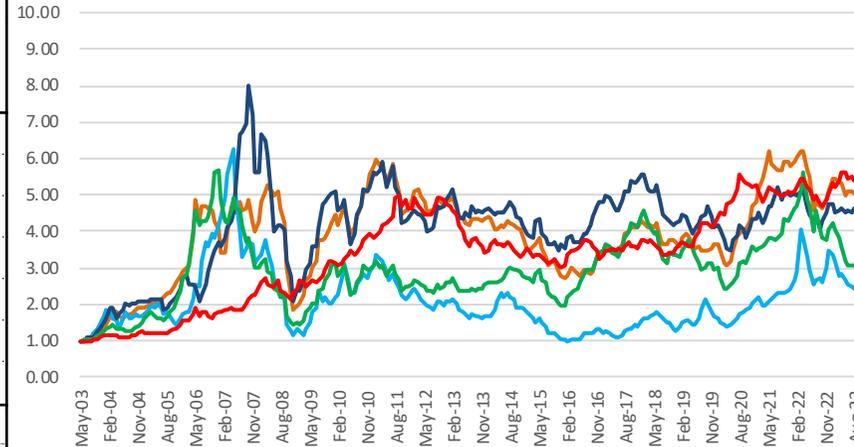
当月の値動き (AM/PM平均価格)



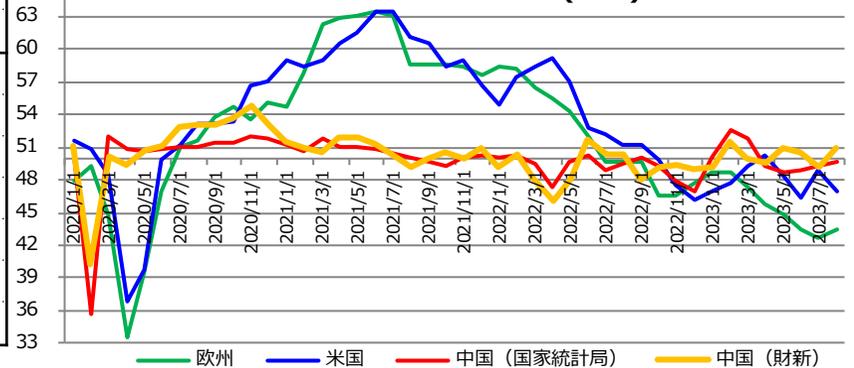
主要非鉄金属の価格推移 (2003年5月 = 1)

(JOGMEC作成)

銅 ニッケル 鉛 亜鉛 金



製造業購買担当者景況指数(PMI)



		銅	亜鉛	ニッケル	金	プラチナ	パラジウム
		LME現物 (US\$/t)	LME現物 (US\$/t)	LME現物 (US\$/t)	AM・PM平均 (US\$/oz)	AM・PM平均 (US\$/oz)	AM・PM平均 (US\$/oz)
本報告期	期初	8,720.50	2,554.00	22,355.00	1,951.98	936.50	1,253.50
	期末	8,359.50	2,412.50	20,225.00	1,943.25	979.00	1,230.00
	最高値	8,720.50	2,554.00	22,355.00	1,951.98	983.50	1,314.00
		8月1日	8月1日	8月1日	8月1日	8月30日	8月11日
	最安値	8,126.50	2,261.00	19,685.00	1,889.98	891.00	1,218.00
		8月15日	8月18日	8月15日	8月21日	8月16日	8月9日
	平均	8,351.77	2,401.02	20,497.73	1,920.62	924.05	1,249.05
先物 (8月31日)	3か月	8,380.50	2,425.50	20,350.00	-	-	-
	24-Dec	8,480.00	2,468.00	21,505.00	-	-	-
	25-Dec	8,535.00	2,480.00	22,590.00	-	-	-
2023年 (当年)	期初	8,390.00	3,004.00	31,200.00	1,839.15	1,084.00	1,799.50
	期末	8,359.50	2,412.50	20,225.00	1,943.25	979.00	1,230.00
	最高値	9,436.00	3,509.00	31,200.00	2,040.38	1,113.00	1,811.50
		1月18日	1月27日	1月3日	5月4日	5月10日	1月9日
	最安値	7,910.00	2,224.00	19,685.00	1,813.85	891.00	1,218.00
		5月24日	5月25日	8月15日	2月27日	8月16日	8月9日
	平均	8,624.22	2,722.51	23,300.48	1,932.31	990.28	1,441.51

米国経済	8月の製造業PMI (IHS Markit社発表) は47.0 (前月: 49.0、予測: 49.3) と失速した。8月非農業部門雇用者数 (米国労働省発表) は前月比18.7万人増 (前月: 15.7万人増、予測: 17.0万人増)、失業率は3.8% (前月: 3.5%、予測: 3.5%) となった。
中国経済	8月製造業PMIは、国家統計局発表は49.7 (前月: 49.3、予測: 49.4)、財新発表は51.0 (前月: 49.2、予測: 49.3) と、前者は5か月連続で50を下回ったものの前月および市場予想からは回復した。
欧州経済	8月製造業PMIは43.5 (前月: 42.7、予測: 43.7) と前月は上回ったものの伸び悩んでいる。